



た。鳥だか虫だかが居なくて実がならないとの話も出ていた。

いつの年であったか、新潟大学の学長室によび出されて行ったら、人事院の佐藤先生がおられて、村松の奥を案内せよとのこと。案内といっても、植物の大先生に植物の案内するなど私にできる筈もなく困ってしまった。そのあげくの名案であったと思うが、石沢君と坪谷さんに同行して頂くことになった。翌日は石沢君の案内で早出川の上流に行ったと思うが、どんな採集があったかまるで記憶しない。その晩村松の旅館で佐藤先生が腊葉にされるのをみていた。その翌日は車で村松から加茂を通過して長岡に出た。加茂で坪谷さんの家に行ったら、道路修理の工事に出ておられて留守であった。しかし坪谷さんの家のまわりをとりまいて植わっている植物を佐藤先生は興味深く見ておられたようである。それから道路工事の仕事中の坪谷さんを見付けて、加茂神社の境内を案内して頂いたのであるが、佐藤先生はこの境内の植物を、また坪谷さんの案内を喜ばれたようであった。

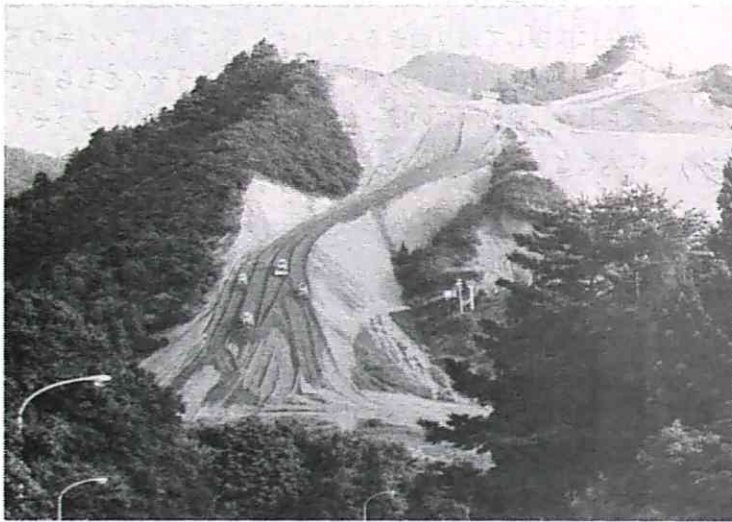
それから、予定の時間に大分おくれて長岡に着いたが、稲田先生も待っておられた。稲田先生と佐藤先生とは前からの御知り合いで、御二人でどんな話を交わされたか、どんな採

集をされたか、残念ながら皆目おぼえていない。

ただ、御二人が悠久山の道のない斜面を山登り競争でもするように、採集はそっちのけで、荒い息音をされながらのぼられた様子が今も目に浮かぶ。どうしてあんなに張合われるようなことになったのか。どちらが先にのぼられたかもわからない。のぼりきると御二人ともやれやれというようにして汗をふいておられた。今思い出してもほほえましい光景で、私はその時つい笑ってしまったことをおぼえている。

昨年頃から老木木を見て楽しむことをおぼえたので、そのことで何か書けないかと思ったが、まとまりそうもない。一言だけ感想をのべさせて頂く。本か新聞かで大木の所在を知って見に行くのであるが、行ってみたいいつも大きいと思う。よくもこんなに生きたものだと思う。太い枝を地面に殆ど平行に出しているようなのをみると、こんな重いものをよくも支えていると思う。夏の暑い日など、夥しい数の葉や小枝の先々が萎れないでいるのをみると、幹の中を水が音をたてて吸上げられているような気がする。大木をみに行くと、いつもこんな風に圧倒されたような気持ちになって帰って来る。そしてまた見に行こうと思う。(元新潟大学農学部教授)

### 改変される自然



スキー場整備(黒川村胎内) 1991. 6. 8



ダム建設(下田村大江) 1991. 7. 1

享月 日

1991年(平成3年)4月18日

ペースケ 園山俊

